



みんなの水泳……日々徒然

2014 IPC Swimming 欧州選手権大会 見聞録 ～2020東京に向けて…徒然～



今回のクラス分けチーム

はじめに

今回は、「2020東京に向けての課題」として、競技規則とクラス分けの理解について、おさらいとしてお伝えしました。

今回は8月にオランダのアイントホーフェンで開催された2014 IPC Swimming 欧州選手権大会で見聞きしたことや感じたことをお伝えしたいと思います。

2014 IPC Swimming 欧州選手権大会は…

この10月にはアジアパラ競技大会がインチョン（韓国）で開催されます。2015年8月にはパラパンアメリカン競技大会がトロント（カナダ）で開催されます。この2つは陸上競技やアーチェリー、水泳などいくつもの競技が行われる総合大会ですね。

今回、私がチーフクラスファイアとして参加した「2014 IPC Swimming 欧州選手権大会」は、総合大会ではなく、水泳だけの大会です（正式名称は2014 IPC Swimming European Championships EINDHOVEN）。

不思議に思えますが、欧州では各競技の大会がそれぞれでしっかり存在してきたことから、これまで総合大会がなかったのだそうです。が、しかし…2015年6月に初めてのヨーロッパ競技大会がバクー（アゼルバイジャン）で開催の予定だとか…。ただし、パラヨーロッパ競技大会があるかどうかは不明のようです。



大会会場

さて、今回の2014 IPC Swimming 欧州選手権大会には欧州40か国から約400名を超える選手が参加しました。ウクライナ、ロシア、英国がメダル獲得数ランキング上位を占めました（確かにウクライナの国歌を何回も聴いた気がします）。24の世界新記録と42のヨーロッパ新記録が出ました。

クラス分けの部屋の様子は…

今回は更衣室のひとつをクラス分けルームとして使用しました（大会中はドーピング検査室として使用されました）。

爽やかな欧州の夏…外の気候やプールサイドは爽やかで最高…だったのですが、この部屋が室温も湿度も高く、環境的には良くありませんでした。空調も効かず、あまりに暑いので、事務局が急遽、扇風機を購入し、設置してくれましたが…のれんに

腕押し…で…、選手も汗だくになってのクラス分けでした。2日間で29名をクラス分けしました。

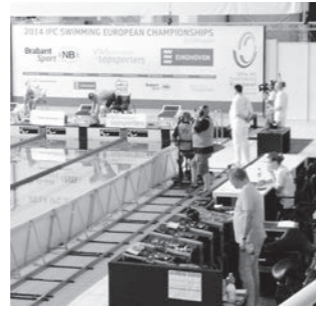


自分の意見を伝え、相手の意見を聞き、マニュアルを確認し、ディスカッションを進めます。脇には扇風機や身長計もありますね



チーフクラスファイアのデスクとコピー機です。セッション後にクラス分けシートのコピーをチームに渡します

TVカメラとDJ、そしてSNS…



TVカメラクルーとDJ（手前）

大会の様子はライブで放映されていました。また、レースの約30分後には、動画がYouTubeにアップロードされていました。Facebookでも世界新記録やリザルトが次々に更新されていきます。

会場では3名のアナウンサーとDJが大会を盛り上げていました。日本の水泳競

技会では考えられないほどの大音量で音楽が流れます。基本的にはDJが曲を選びますが、ツイッターでもリクエストを受け付けており、ジャズから最新のポップスまで、60年代から最新のものまで、様々な曲がかかります。そんな音楽を聴きながらの競技観察となりますが、クラスファイア同士で話すためにはかなり大声で話さなければならぬほど、です。

「2020東京」の大会運営に向けて、このような海外での大会の諸々について、色々な視点で見聞きしていくことも大切ですね。

入退水とその介助について

前回もお伝えしましたが、入退水とその介助は、障がいのある人の水泳において、特徴的な要素のひとつです。基本的には安全で安心できる方法で行いますが、大きな国際大会では、入水時も退水時も介助者はプールサイドから介助します。

今回感じたのは、S1やS2クラスにおいても入水時は自分のレーンのスタート台横から入水する選手が多いということでした。最も重度だとされるS1クラスでも、従来のようにプールサイド横から入水する選手が2名ほどしかいないレースもあり、世界は変わってきているのだなと感じました。

レースの様子など、YouTubeで見ることができそうですが、入水や退水なども映っている部分があります。IPC SwimmingのFacebookページでも大会の様子がわかる写真がたくさん紹介

されています。一度ご覧になってみてください。

ボランティアと英語…

今回の大会のボランティア最年少は7歳だそうです。子どもたちからシニア層の方まで多くのボランティアが楽しそうに手伝っていました。

みなさん、英語のうまい下手に関わらず、積極的なコミュニケーションが印象的でした。私たちも、2020東京に向けて…頑張らねば…英語、です。

選手の移動とバス…

チームのホテルー競技会場間の移動は、写真のようなバスで行われました。チームごとではなく、先行のホテルごとに適宜ピストン輸送される形です。

競技役員や大会事務局は、あらかじめスケジュールが決まっているのではなく、普通乗用車やワゴン車でリクエストに応じて配車される柔軟な形での輸送でした。



日本のバスが2台分つながったような大きなバスでした



スロープはこんな感じ

練習用プールでは…

練習用プールは水深2.2m、やはり欧米のプールは深いですね。かなり前の連載でも紹介しましたが5mフラッグが黒色、天井とのコントラストはイマイチだと思うんですけど…。レーンロープを張る金具も写真のように出っ張った形状…踏んでしまったら痛いと思うのですが、細かいことはあまり気にしない…ということでしょうか…。



黒いフラッグ、わかりますか？天井はグレーです



金具がこんな風に、一応丸っこい形状ですが、踏むと痛いと思います…なんで出っ張ったままの形状なんだろう？

車いす席と観客席…

今回の会場は「Pieter van den Hoogenband Zwemsstadion」（ピーター・ヴァン・デン・ホーバント水泳スタジアム）でした。写真のように車いす席がたくさん配置できる観客席でした。



柵はなし、そのまま表示がしてありました

こんな電動車椅子も…

スペインチームの選手の電動車いすです。

下肢機能障害の選手の車いすは手で発進・停止するタイプでバッテリーはフロントの黒い部分についています。12～13時間稼働できるそうです。小回りもよさそうでした。



3輪車タイプの電動車いす



3輪スクーター(?)風の電動車いす

もう一つはスクーター風で、多肢欠損の選手のもので、写真のように右足で発進・停止するタイプでした。これも12～13時間稼働できるそうです。



右足の内側に黒いアクセルみたいなものがあります



バッテリーです